

令和6年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

1. 申請部局

学部・研究科名等： 地域イノベーション学研究科

事業担当者の職・氏名： 研究科長 諏訪部 圭太

内線電話番号： 6977

電子メール： suwabe@bio.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称（20字以内，別に副題を付けても良い）

第16回地域イノベーション学に関する国際ワークショップの開催と交流事業

3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

4. 事業の取組結果

(1) 事業概要 (簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください)

地域イノベーション学研究科の発足から毎年行っている「地域イノベーション学に関する国際ワークショップ (International Workshop on Regional Innovation Studies; IWRIS)」は、三重大学内で開催し、海外の大学から研究者を招へいして、教員並びに学生が国際的な情報交流と英語による研究論文の執筆・発表を経験することによるグローバル化に対応した国際感覚を身に付けるための学术交流であり、2024年においても16回目の開催である第16回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ(IWRIS2024) (図1)を行った。

図1 IWRIS2024 国際ワークショップのポスター

(2) 事業の背景・これまでの実績

地域イノベーション学研究科が開設された平成21年の10月に「第1回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ (IWRIS2009)」を、マレーシアのケバンサン大学教授1名・准教授1名、国際イスラム大学マレーシア校の准教授1名の計3名を招へいし、三重大学で開催した。この国際ワークショップは、地域の企業や高等教育機関と連携することを目指し、学外にも参加を呼びかけ、21件の研究発表と2件の招待講演を行い、査読付きの研究論文集を発行した。国際ワークショップ後には、地域企業の工場見学会 (シャープ株式会社亀山工場、三重電子株式会社ほか) と文化施設見学会を行い、三重地域とマレーシアの学術文化交流を実施した。

第2回 (平成22年10月)、第3回 (平成23年10月) の地域イノベーション学に関する国際ワークショップでは、以前から本研究科の教員が交流していた実績から、本研究科が世話役となって、本学と国際交流協定を締結した瀋陽薬科大学の教授を招へいし、招待講演をしていただき、地域圏企業 (中外医薬生産株式会社 (伊賀市)、万協製薬株式会社 (多気町)) などを訪問していただき、大学だけでなく、地域の産業の動向に関する情報交換会を実施した。

第4回 (平成24年10月) には、本学工学研究科と以前から国際交流しており、学長が三重大学で博士 (工学) を取得したマレーシアのタチ大学と、本研究科の教授が相互交流している実績を踏まえて、全学的に国際交流を推進するために、平成23年度、大学間協定を提携した。そこで、第4回の国際ワークショップでは、タチ大学のMohd Badrul Haswan 化学部長とSyahrul Fahmy コンピュータメディア学部長の2名を招へいし、24件の研究発表と2件の招待講演を行い、その後、研究室見学などを行い、学術の相互交流を行った。

第5回 (平成25年10月) は、平成24年度に続き、大学間協定を提携している

タチ大学の Wan Zulkarnain 電気・オートメーション学部長と Mohamad Redhwan 学生部長の 2 名を招へいし、17 件の一般研究発表と 2 件の招待講演を行い、その後、研究室見学、企業見学（三重電子株式会社）などを行い、学術と地域企業との交流を行った。

第 6 回（平成 26 年 10 月）は、台湾の真理大学 Kuanju Lin 助教授、南台科技大学 Chun-Sheng Chang 生物工学科長と Chun-Kai Wang 准教授の 3 名を招へいし、21 件の一般研究発表と 3 件の招待講演を行い、研究室見学、企業見学（うれし野アグリ株式会社、株式会社ナベル）などを行い、学術と地域企業との交流を行った。

第 7 回（平成 27 年 10 月）は、台湾から真理大学の Tzu-Wen Sung 助教授と南台科技大学の Ting-Feng Wu 教授、カンボジアから王立プノンペン大学の Loch Leaksmy 日本語学科長を招へいし、19 件の一般研究発表と 3 件の招待講演を行い、ワークショップ後には地域企業（株式会社ナベル）を見学し、学術と地域企業との交流を行った。

第 8 回（平成 28 年 10 月）は、タイからタマサート大学の Wasam Luangprapat 教授、台湾から南台科技大学の Chih-Hung Lin 教授、カンボジアから王立プノンペン大学の Loch Leaksmy 教授を招へいし、27 件の一般研究発表と 3 件の招待講演を行い、ワークショップ後には地域企業（うれし野アグリ株式会社と株式会社浅井農園）を見学し、学術と地域企業との交流を行った。

第 9 回（平成 29 年 10 月）は、台湾から高雄医療大学の Mei-Ling Ho 教授、韓国からソウル市立大学の Jong-In Dong 教授及び中央大学の Jeongin-Kim 教授、中国科学院長春光学精密機械と物理研究所の Sun Xiaojuan 教授を招へいし、17 件の一般研究発表と 4 件の招待講演を行った。

第 10 回（平成 30 年 10 月）は、台湾から南台科技大学 Ling-Mei Ko 准教授、真理大学 Chia-Hui Huang 准教授、中国から南京審計大学 Wen Gao 教授、中国科学院長春光学精密機械と物理研究所 Dabing Li 教授、韓国から中央大学 Jeongin Kim 教授、ソウル市立大学 Jong-In Dong 教授、カンボジアからプノンペン大学 Loch Leaksmy 教授、トルコからシュレイマン デミレル大学 Hasan Yilmaz 教授を招へいし、23 件の一般研究発表と 8 件の招待講演を行った。

第 11 回（令和元年 10 月）は、同じく 11 回目の開催となる台湾・フィリピン・日本国際学術会議（TPJ-IAC）との共同による、第 11 回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ（IWRIS2019）と第 11 回台湾・フィリピン・日本国際学術会議（TPJ-IAC2019）の国際共同ワークショップとして、韓国のソウル国立大学 Euijoon Yoon 教授、同じくソウル市立大学 Jong-In Dong 教授、中国の北京大学 X. Q. Wang 教授、台湾の真理大学 Shu-Chin Su 助教、カンボジアのプノンペン大学 Loch Leaksmy 教授、タイのタマサート大学 Preuk Chutimanukul 助教、フィリピンのサンカルロス大学 Melanie Banzuela-de Ocampo 教授並びに日本の星城大学 Tomoko Kato 教授を招へいし、39 件（うち海外学生：25 件）一般研究発表と 8 件の招待講演を行った。

第 12 回（令和 2 年 10 月）は、折しも新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミック状況の中、海外からの研究者の招へい（渡日）を避け、当初計画の 2 日間の開催計画を 1 日の開催に集約し、国内の外国人研究者をコメンテーターとし

て招待した。また参加者の感染リスクに配慮してオンラインでの同時開催を実施し、更に三重大学会場での感染症防止対策として、会場への入場の際には、体温の確認として全員のサーマルカメラによる検温と手指消毒を確認すると共に参加者の密を避けるための会場内の座席の設定を行った。海外からの研究者の招へいは叶わなかったが、コメンテーターとして外国人研究者1名の参加を含め、全97名の参加者（うちZOOMの参加者19名）の中、17件の一般研究発表（うちZOOMの発表2件）が行われ、多様な発表と質疑が行われた。

第13回（令和3年10月）は、前年度に引き続き、全世界に猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症の影響により、海外からの研究者の招へいができない状況を考慮し、当初計画の2日間の開催計画を1日の開催に集約するとともに、台湾、真理大学のHsiao-Fen Chang准教授とオンラインで繋ぎ、招待講演を実施した。また、新型コロナウイルス感染症対策として、参加者の感染リスクに配慮してオンラインでの同時開催を実施するとともに、国際ワークショップ会場での参加者の感染症防止対策として、会場への入場の際には体温の確認として、サーマルカメラによる検温と手指消毒を実施させるとともに参加者の密を避けるために、会場内の座席の設定を行った。海外からの研究者の招へいは叶わなかったが、招待講演として外国人研究者1名の参加を含め、全71名の参加者（うちオンラインの参加者17名）の中、16件の一般研究発表（うちオンラインの発表9件）が行われ、多様な発表と質疑が行われた。

第14回（令和4年10月）は、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、海外からの研究者の招へいができない状況を考慮し、当初計画の2日間の開催計画を1日の開催に集約するとともに、チェンマイ大学（タイ）のTanongkiat Kiatsiriroat教授、真理大学（台湾）のChih-Pin Lin教授とオンラインで繋ぎ、招待講演を実施した。海外からの研究者の招へいは叶わなかったものの、招待講演2名、一般講演3名が海外から参加するなど、全99名の参加者（うちオンラインの参加者13名）の中、15件の一般研究発表（うちオンラインの発表4件）が行われ、多様な発表と質疑が行われた。

第15回（令和5年10月）は、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことを受け、4年ぶりに海外からの招聘者を迎え、2日間に渡って対面で開催された。一般研究発表のほか、韓国中央大学のJeong-In Kim先生、カセサート大学（タイ）のViganda Varabuntoonvit先生、チェンマイ大学（タイ）のChatchawan Chaichana先生による招待講演を実施し、1日目にはバンケットも行われ、活発な交流が行われた。延べ140名の参加者の中、招待講演3件をはじめ、4セッションにより14件の一般研究発表が行われ、多様な発表と質疑が行われた。

(3) 事業実施結果

第16回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ（IWRIS2024）（図1）を、以下のスケジュールにて実施した。

- 1) 7月12日（金）（7月19日（金）まで延長）発表申込（査読用原稿）締切
- 2) 8月8日（木）論文査読結果による採択通知
- 3) 9月6日（金）（9月13日（金）まで延長）印刷用原稿締切
- 4) 10月17日（木）、18日（金）国際ワークショップの開催

場 所：地域イノベーション研究開発拠点C棟3階

地域イノベーションホール

一般講演：19件（日本16件、台湾2件、インドネシア1件）

基調講演：5件（台湾1件、インドネシア1件、マレーシア3件）

招待講演：4件（韓国1件、台湾1件、インドネシア1件、マレーシア1件）

参加者数：1日目88名、2日目72名、延べ160名

5) 海外の招へい教員（所属）

- ・真理大学（台湾）

Prof. Chia-Hui Huang

- ・漢陽大学校メディカルセンター（韓国）

Dr. Won-Cheol Kim

- ・マレーシアペルリス大学（マレーシア）

Assoc. Prof. Zuradzman Mohamad Razlan

- ・パジャジャラン大学（インドネシア）

Assoc. Prof. Gemilang Lara Utama



図2 真理大学のロゴ



図3 漢陽大学校 Medial Center のロゴ



図4 マレーシアペルリス大学のロゴ



図5 パジャジャラン大学環境サステナビリティ科学研究センターのロゴ

第16回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ（IWRIS2024）は、昨年度に引き続き、海外からの招聘者を迎え、2日間に渡って対面で開催された（図6, 7）。一般研究発表のほか、真理大学（台湾）の Chia-Hui Huang 先生、漢陽大学校メディカルセンター（韓国）の Won-Cheol Kim 先生、マレーシアペルリス大学（マレーシア）の Zuradzman Mohamad Razlan 先生、パジャジャラン大学（インドネシア）の Gemilang Lara Utama 先生による招待講演（図8）を実施し、1日目にはバンケット（図9）も行われ、活発な交流が行われた。

延べ160名の参加者の中、招待講演4件をはじめ、セッション1「Engineering I for Regional Innovation」、セッション2「Social Engineering I for Regional Innovation」、セッション3「Social Engineering II for Regional Innovation」、セッション4「Social Engineering III for Regional Innovation」、セッション5「Engineering II for Regional Innovation」の5セッションにより、5件の基調講演および19件の一般研究発表が行われ、多様な発表と質疑が行われた（図10）。

また、今年度から博士前期課程「国際コミュニケーションⅠ・Ⅱ」履修者の役割分担に「アテンド係」を新設し、休憩や昼食の時間、バンケット等で海外からの学生との活発な交流が見られた。

なお、一般研究発表に対しては、アブストラクト及びフルペーパーの査読と英語での発表を評価した結果、2名の発表者に最優秀論文賞、2名の発表者に優秀論文賞、3名の発表者に奨励賞を授与した。（図11）



図6 諏訪部研究科長による開会挨拶の様子



図7 集合写真（1日目）



図8 招待講演の様子



図9 バンケットの様子

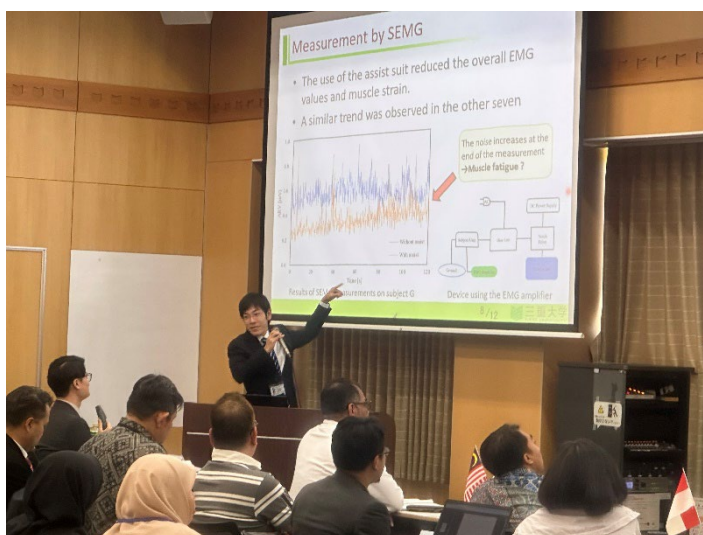


図10 大学院生による発表と質疑の様子



図 1 1 表彰式

(4) 事業の意義

本国際ワークショップは、三重地域圏の学際的研究、国際的な共同研究を促進するために、大学の教員と学生、教員と教員、学生と学生が英語で意見交流する場を提供することを目的に実施している。すなわち、学生が英語で研究論文を執筆し、英語で研究発表する経験をし、研究と国際交流に対するモチベーションを向上させ、地域社会を牽引する国際的に活躍する人材の育成を目指して本事業を実施している。本研究科の学生にとっては、この国際ワークショップは英語科目の単位認定に位置づけられており、単に会場の準備や会場係としてワークショップの運営に関わるだけでなく、発表に対して英語で質問をすることで、英語を使ったコミュニケーションの練習の場としても非常に意義深いものとなっている。

(5) 事業の発展性

本国際ワークショップは、地域イノベーション学研究科の主催で毎年開催しており、来年度以降も外国の大学の研究者を招へいし、同じ時期に同じ形式で開催することとしている。なお、4年後には第20回を記念して開催すること検討しており、同ワークショップの充実を図ることが、本研究科における教育・研究の発展・充実に繋がるものとして取り組んでいる。

併せて、この事業によって、本学と海外の大学とのより深い相互理解が進展し、よりふさわしい博士前期課程と博士後期課程の学生を入学させることが可能となることを確信している。

(6) 中期目標・中期計画における位置づけ

<該当する中期目標>

(3) 国や社会、それを取り巻く国際社会の変化に応じて、求められる人材を育成するため、柔軟かつ機動的に教育プログラムや教育研究組織の改編・整備を推進することにより、需要と供給のマッチングを図る。

(8) 学生の海外派遣の拡大や、優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化、海外の大学と連携した国際的な教育プログラムの提供等により、異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材を養成する。

- (9) 様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げるため、性別や国籍、年齢や障害の有無等の観点から学生の多様性を高めるとともに、学生が安心して学べる環境を提供する。
- (17) 外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを用いたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。

<地域イノベーション学研究科の教育目標>

- 1) 高度な研究開発に関する能力
- 2) 課題の発見とその解決に資するプロジェクト・マネジメントに関する能力
- 3) グローバル化に対応した国際感覚

○国際交流事業による教育目標の実施方法

上記3つの能力を、本申請の国際ワークショップにおいて博士前期課程と博士後期課程の大学院生が研究した内容を英語の論文にまとめ、発表し、外国人と英語でディスカッションすることにより、実体験を通して国際感覚を身につける教育をする。この体験を通じて、国際的にも評価される基準に沿った「高度な研究開発に関する能力」、期限までに限られた資源により研究成果を出し、研究内容をまとめる「プロジェクト・マネジメント能力」、研究開発した内容を英語で表現する「仕事に役立つ英語」の能力、すなわち「グローバル化に対応した国際感覚」を育成する。

(7) その他

来年度以降も継続して国際ワークショップを開催しますので、引き続き、ご支援を宜しくお願い致します。

令和6年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

第16回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ（IWRIS2024）を三重大学地域イノベーションホールで開催

【概要】

2024年10月17日（木）、18日（金）に、三重大学地域イノベーションホールにて、「第16回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ（The16th International Workshop on Regional Innovation Studies（IWRIS2024）」が開催された。

この国際ワークショップは、三重大学に「地域イノベーション学研究科」が設立された平成21年（2009年）から三重大学で毎年開催されており、海外からの招聘者を迎え、2日間に渡って対面で開催された。延べ160名が参加する中、招待講演4件のほか、セッション1「Engineering I for Regional Innovation」、セッション2「Social Engineering I for Regional Innovation」、セッション3「Social Engineering II for Regional Innovation」、セッション4「Social Engineering III for Regional Innovation」、セッション5「Engineering II for Regional Innovation」の5セッションにより、5件の基調講演および19件の一般研究発表が行われ、多様な発表と質疑が行われた。

また、1日目にはバンケットを開催するなど、開催期間を通じて活発な国際交流が図られた。

【論文賞】

一般研究発表に対しては、アブストラクト及びフルペーパーの査読と英語での発表を評価した結果、2名の発表者に最優秀論文賞、2名の発表者に優秀論文賞、3名の発表者に奨励賞を授与した。

【次回開催】

第17回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ（IWRIS2025）は2025年10月中旬に三重大学で開催する予定である。

令和6年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：英語版）

“The 16th International Workshop on Regional Innovation Studies (IWRIS2024)” at Regional Innovation Hall, Mie University

【Outline】 The 16th International Workshop on Regional Innovation Studies (IWRIS2024) was held at the Regional Innovation Hall, Mie University on Thursday, October 17-18, 2024.

This international workshop has been held every year at Mie University since 2009, when the "Graduate School of Regional Innovation Studies" was established at Mie University. It was held for two days with invited speakers from overseas in a face-to-face setting. With a total of 160 participants, we had 4 invited lectures, 5 keynote speeches and 19 general research presentations given in 5 sessions: Session 1 “Engineering I for Regional Innovation”, Session 2 “Social Engineering I for Regional Innovation”, Session 3 “Social Engineering II for Regional Innovation”, Session 4 “Social Engineering III for Regional Innovation”, Session 5 “Engineering II for Regional Innovation”, and a variety of presentations and Q&A sessions were held.

In addition, a banquet was held on the first day, and an active international exchange was promoted throughout the event.

【Article Award】 The workshop program committee awarded the best outstanding paper awards to 2 presenters, outstanding paper awards to 2 presenters, encouragement paper awards to 3 presenters based on the abstract review and their presentations in English.

【Upcoming Schedule】 The 17th International Workshop on Regional Innovation Studies (IWRIS2025) is scheduled to be held at Mie University in mid-October 2025.